

【会長賞…小学生の部】

「少しだけ待つ気持ち」

栃木県・作新学院小学部  
4年 丸山 祐奈さん

私はお母さんが仕事の帰りに買ってきてくれるパンが大好きです。食パンやチョコパン、とつてもおいしいし、パンダの顔などかわいいパンもあります。どんなパン屋さんのかな？と私は思っていました。

ある日、でかけた帰り道、お母さんが「パン屋さんに行ってみよう。」と言いました。私はわくわくしてお店までむかいました。お店に入るとエプロンをした店員さんがたくさんいて、ひとりのお姉さんがみんなに声をかけていました。私がパンを選んでいると、近くに立っていた店員さんがじっと見えています。なんだらう？と思いつつも私はトレイにパンをのせレジまでむかいました。レジでは、さっき指示をしていたお姉さんがレジのお兄さんに話をしています。お兄さんがゆつくりレジを押して金額を言いますが、おつりもなかなかもらえないし、パンを袋につめてくれるお姉さんもゆつくりでなかなかパンももらえません。私はちよつとイライラして

きました。すると、支援員の名札をつけたお姉さんがこう教えてくれました。このパン屋さんは知的しょうがいがある人が働いていること、お姉さんはみんなが苦手なことを教えながら、いっしょに働いていること。

私はそれを聞いてビックリしました。なぜなら、しょうがいがある人がこんなふうには働いていることを知らなかったからです。そして、その時お姉さんが言いました。

「みんなしょうがいはあるけど、一生けん命働いているし、教えてあげればなんでもできるんだよ。でもちよつとだけ時間が必要だから少しだけ待つてくれるかな。」  
私は「はい。」と答えました。

その後、私はおつりとパンを受け取って帰りました。家に帰ってパンを出そうとすると袋にはパンが丁ねいに入れてありました。他のパン屋さんだとパンが重なったり、つぶれたりしていることもあるのに、買ってきたパンは全部きれいでした。食べてみると、やっぱりおいしい。私は自然と笑顔になりました。

私はかつてに、しょうがいがある人はできないことがたくさんあつてかわいそうな人だと思ひこんでいましたが、それは大きなまちがいだということにこの日気がつきました。ただ、「少しだけ待つ気持ち」をみんなが持つてば、しょうがいがあつても、ない人も同じように働けるんだと思ひました。だから、私は「少しだけ待つ気持ち」を大切にして、しょうが

いがある人といっしょに生きていけたらいいなと思います。